

新たな学校の運用体制について

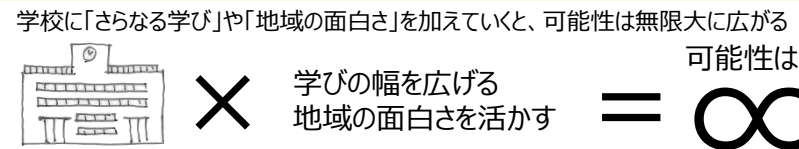
資料の見方：①～⑨を順番に見ていく。重要部分は「Point 2 5 6」。

1 新たな学校を地域拠点とするにあたり、みんながつどう要素を教員負担を軽減しながら追加するとともに、少子高齢化による地域人材の減少にも対応する。これまで町田市が築いてきたコミュニティスクールに、さらに民間の力を足すことで、学校でできることの幅を広げて、子どもだけではなく大人も活動のためにつどう仕組みを作る。

3 ☆運用体制模式図☆ 新たな民間等活力と既存の仕組みを合体させる。

Point 2

みんながつどう
地域拠点にする



学校ってたのしい◎
〇〇したいが叶う場所

新たな民間等の活力を導入して実現しよう！

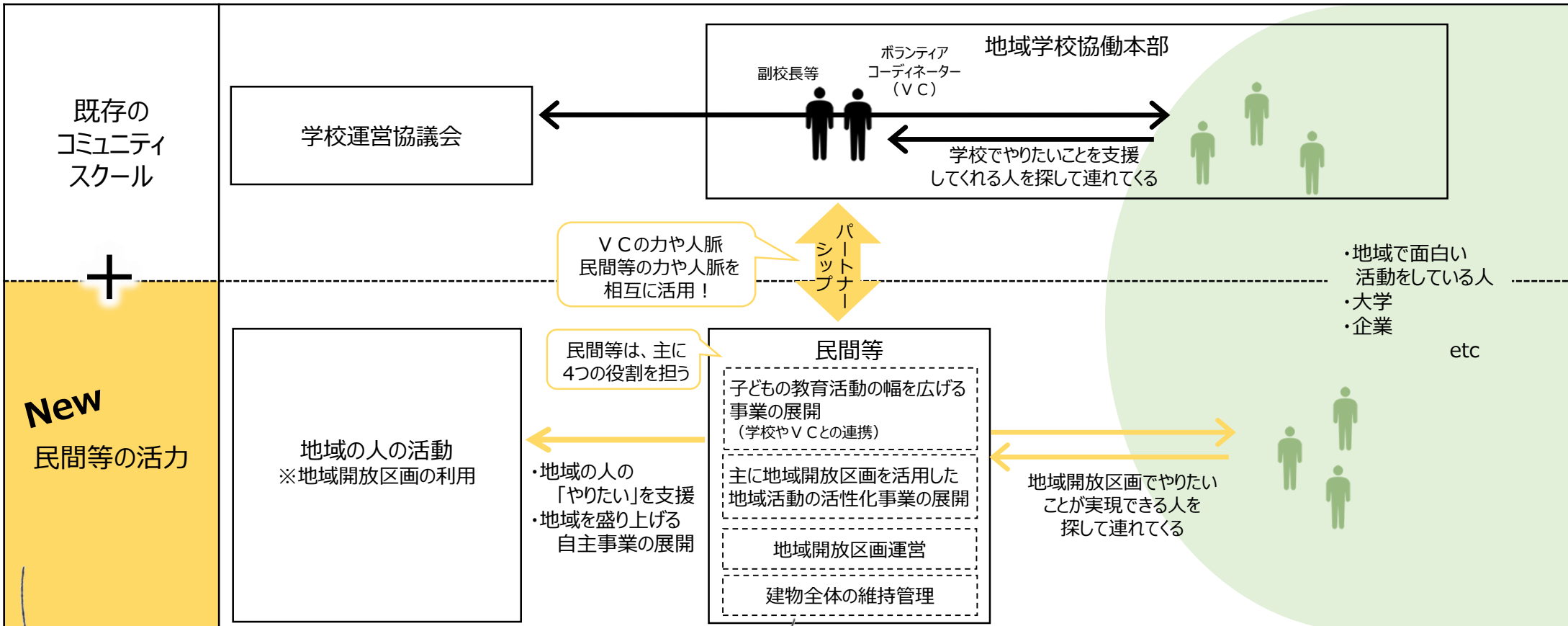


新たな学校で
目指すこと

教員が教育活動に
専念できる環境にする

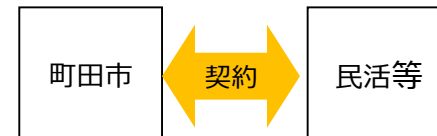


- 施設開放 ※体育館貸出業務など
- 建物の維持管理 ※施設不備の日常点検、修理の手配など



☆効果を最大限に引き出すために☆

7 様々な業務を一括で契約することで事務負担の軽減や相乗効果をあげることを考える



8 実施に向けて検討すべき課題

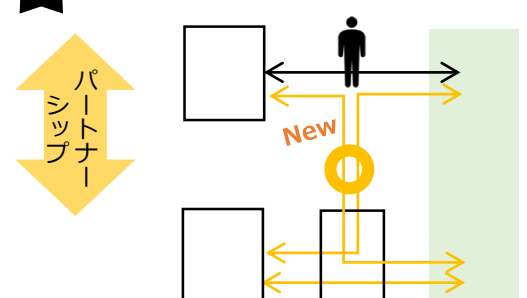


9 2040 に向けて運用体制も進化させる

- それぞれの地域の特色をさらに活かした活動ができるように、**地区別の運営**はどうか。
- 学校、民間、地域それぞれ得意なところを活かしあうことで、無理なく**持続できる運営**になったらいいな。



4 パートナーシップを結ぶと生まれる効果



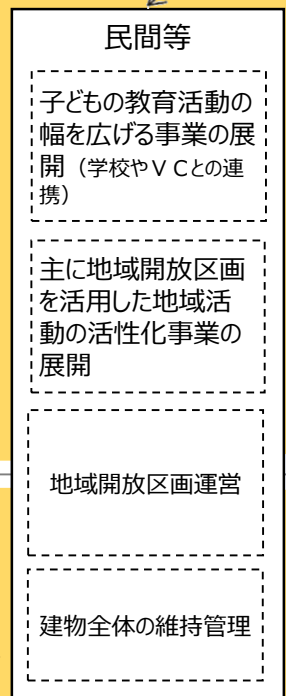
- ◆ 学校運営協議会が、VC等を通して民間等の人脈を借りられたり、企画の実施支援をしてもらえたりする。学校教育でできることの幅が広がる。
- ◆ VCが培ってきた力や人脈を民間等を通して地域の人の活動につなげられる。

新しい→が生まれて、みんなの学びや交流の範囲がぐっと広がる！

☆民間等を導入することで実現したい姿☆

Point 5

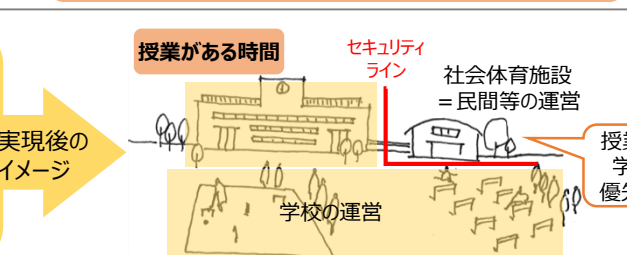
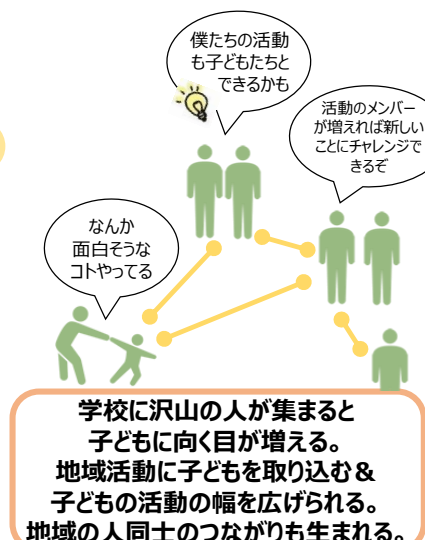
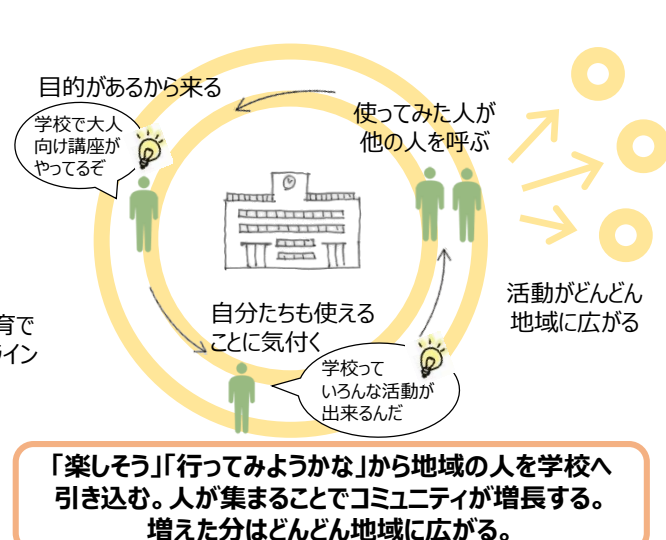
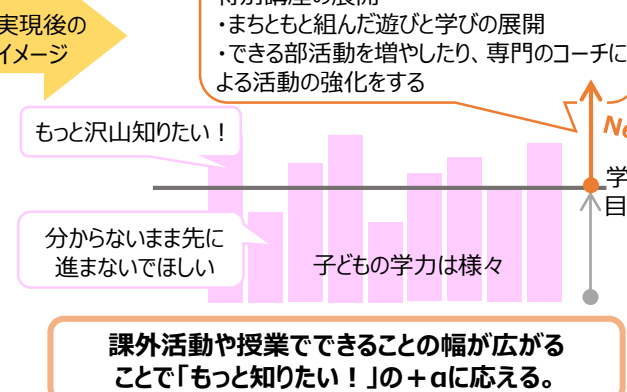
「みんながつどう地域拠点にする」ために導入したいこと



Point 6

「教員が教育活動に専念できる環境」にして、教員の負担軽減をするために、導入したいこと

学びや交流の範囲が広がるとできるようになるかも



地域の人を使うことを前提とした施設づくり&学校から運営を切り離すことで教員の負担を増やさずに、地域への開放をしやすくする。

用語説明

- 学校運営協議会…学校運営や学校運営に必要な支援に関する協議を行うため、市立小中学校に設置する合議体。
- ボランティアコーディネーター (VC) …授業、学校行事、部活動等の学校に対する地域協力者の手配及び調整をする人。
- 地域学校協働本部…学校と地域がより強固に連携・協働した地域学校協働活動を進めていくために設置。構成員は、学校職員・VC・地域学校協働活動に参画する個人や団体。